▽▲祝 新造船「航洋丸」命名・進水式▲▽

九州関門地方支部

-日本サルヴェージ株式会社-

晴天に恵まれた1月12日、山口県下関市にある三菱重工業株式会社の下関造船所江浦工場で、日本サルヴェージ株式会社新造船の命名・進水式が行われ、約60人が出席した。日本サルヴェージ(株)は、海難救助を礎に事業を展開。創業以来120年以上にわたって蓄積してきた経験とノウハウを生かし、座礁、衝突、火災、浸水、遭難などの船舶事故へ対応し、沈没船撤去や油防除など、環境損害を防止・軽減する海のエキスパートとして活躍している

■大型海難に対応する日本最大級の曳航力

式典では最初に命名式が行われ、日本サルヴェージ(株)の関根和人代表取締役社長から「航洋丸」と名付けられた。続いて、関根社長の奥様の関根範子さんが支綱を切断し進水式が行われた。船首に飾られたくす玉が割れ、紙テープや紙吹雪が舞うなか、「航洋丸」は船尾から進水台を滑り進水した。見守る関係者からは盛大な拍手と喜びの声が上がった。

「航洋丸」は海難救助船兼曳船で、全長約80m、総トン数2930トン。現在活躍中の「航洋丸」の代替新造船として建造された大型海難に対応する日本最大級の曳航力を持ち、放水銃など消火装置の配置最適化と定点保持能力の向上で、他船の火災を消火する際の効率化を図っている。

また、SCR(排煙脱硝装置)の装備により、NOx(窒素酸化物)の排出が制限される米国・カナダ沿岸や北海・バルト海などの指定海域でも活動が行えるよう環境規制への対応を実現し、さらに、新船型(半垂直ステム)を採用して推進性能の向上を図ったほか、暴露甲板へROV(遠隔無人潜水機)などの仮設装置を任意に配置できるよう工夫して作業性を向上し、観測員などの臨時乗船者の滞在スペースを個室化して居住性を向上している。

■次代につなぐ海技の伝承

船舶事故は、緊急性が高く当事者による対応が困難であることから、速やかに専門業者を手配することが損害軽減への第一歩となる。日本サルヴェージ(株)は、事故対応に精通した熟練スタッフ、各種事故に対応可能な救助船や救助資機材を揃え、創業以来120年にわたって蓄積してきた経験とノウハウ、ネットワークを最大限に活用して世界各地で迅速な事故対応を行い、数多くの実績を積み上げてきている。

近年、海外での事故対応のほかに、飽和潜水装置を導入したことで深海からの有害物質除去にも積極的に取り組むことができるようになり「より広く、より深く」活躍の幅を広げている。

新造船「航洋丸」は、艀装工事、試運転などを経て2024年6月に就航の予定。

「海員だより」